

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ミクロ経済学(Microeconomics)	授業コード	E005951
担当教員名	下田 憲雄		
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	全コース選択	単位数	4
履修上の注意または履修条件	必修科目「経済学入門」を履修していること。		
受講心得	ミクロ経済学を理解することは、講義を聴いて、教科書を読むだけでは難しい。講義内容の理解を深め、理解するためには、テキストを読み、そこに例示されている問題等を自身で解くなどして、自分で考えることが必要です。そのためにも講義の区切りにおいて、全部で4回のレポート課題(演習問題)の提出を求めます。		
教科書	「ミクロ経済学」奥野正寛(編著) 東京大学出版会		
参考文献及び指定図書	「ミクロ経済学 新経済学ライブラリー4」武隈慎一(新世社) 「ミクロ経済学」西村 和夫(岩波書店)		
関連科目	経済学入門、経済数学、経済統計学、財政学、公共経済学		

授業の目的	講義の目的は3つあります。第1はミクロ経済学の基礎的な概念を体系的に理解することです。第2は資源配分機構としての市場メカニズムの機能とその限界を理解することです。第3は、情報、不確実の果たす役割を理解することです。
授業の概要	【テーマ】 ミクロ経済学の基本的な概念と考え方(理論)の理解 【ねらい】 ミクロ経済学の課題は、希少な資源を人々の限らない欲望を満たすためにどのように配分するのか、という人間社会の基本問題を分析することです。このような資源配分の問題を分析するには、個人や企業など個々の意思決定主体の行動を理解することが重要です。この講義では、消費者や企業の経済行動を分析し、そしてそこから得られる分析結果を用いて市場メカニズムの資源配分機構としての機能と限界を明らかにします。 【目標】 受講生にはミクロ経済学の基本的な概念や理論を理解すること。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1回：講義の概要 講義の概要を説明します。また、講義に必要な数学について演習をします。	
第2回：ミクロ経済の応用例 ミクロ経済学の考え方の応用例について学びます。	
第3週：消費者行動(1) 消費者の選好 ミクロ経済学での消費者の選好について学びます。	
第4週：消費者行動(2) 最適消費計画 消費者行動の効用最大化と最適消費計画について学びます。	
第5週：消費者行動(3) 需要関数 消費者の効用最大化行動から需要関数の導出について学びます。	
第6週：消費者行動(4) 所得の変化と需要 所得の変化に伴う需要の変化について学びます。	
第7週：消費の理論(5) 価格の変化と需要	

価格の変化に伴う需要の変化について学びます。	第1回目のレポート課題の配布
第8週：生産者行動（1）企業と生産関数 生産技術を表現した生産関数について学びます。	
第9週：企業行動（2）短期の生産者行動 費用最小化 短期の費用最小化について学びます。	
第10週：企業行動（3）短期の生産者行動 利潤最大化 短期の利潤最大化について学びます。	
第11週：企業行動（4）長期の生産者行動 費用最小化 長期の費用最小化について学びます。	
第12週：企業行動（5）長期の生産者行動 利潤最大化 長期の利潤最大化について学びます。	
第13週：企業行動（6）供給関数 供給曲線について学びます。	第2回目のレポート課題の配布
第14週：市場均衡（1）部分均衡 部分均衡の分析を学びます。	
第15週：市場均衡（2）一般均衡分析とパレート最適 一般均衡分析とパレート最適について学びます。	
第16週：市場均衡（3）市場均衡の応用例 市場均衡の応用例を学びます。	第3回目のレポート課題の配布
第17週：小テスト 小テストを実施して、講義内容の理解を確認します。	
第18週：ゲーム理論の基礎 ゲーム理論の基礎を勉強します。	
第19週：不完全競争（1）独占市場 独占の理論について学びます。	
第20週：不完全競争（2）寡占市場 クールノーの複占市場について学びます。	
第21週：不完全競争（3）寡占市場 その他の寡占モデルについて学びます。	
第22週：不確実性と情報の非対称性（1）不確実性と経済学 不確実性下における意思決定と市場取引について学びます。	
第23週：不確実性と情報の非対称性（2）情報の非対称性 情報の非対称性と契約理論について学びます。	
第24週：不確実性と情報の非対称性（3）情報の非対称性 逆選択、モラルハザードについて学びます。	第4回目のレポート課題の配布
第25週：不確実性と情報の非対称性（4）情報の非対称性 情報の非対称性の応用例について学びます。	
第26週：外部性と公共財（1）外部性とは	

外部性について学びます。		
第27週：外部性と公共財（2）コースの定理 コースの定理について学びます。		
第28週：外部性と公共財（3）ピグー税・補助金について ピグー税や補助金など外部性の内部化について学びます。		
第29週：外部性と公共財（4）公共財の定義 公共財の考え方について学びます。		
第30週：外部性と公共財（5）公共財の課題 公共財の課題について学びます。		第5回目のレポート課題の配布
第31週：期末試験 試験時間60分。教科書の持ち込み可。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	市場システムに対する関心の涵養と基本的なメカニズムの理解しようとする積極的な学習態度の向上を目指す。
【知識・理解】	市場システムの理解を深める。
【技能・表現・コミュニケーション】	基礎的な数学の処理と論理的な文書表現ができること。
【思考・判断・創造】	論理的な思考と判断力ができること。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	5点	10点	0点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	35点	20点	0点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	5点	5点	0点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	15点	5点	0点	
(「人間力」について) ¥				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	